

## ブラジルの教育事情

### —経済発展とともに注目すべき教育改革—

帝京大学外国語学部教授 江原 裕美

EHARA Hiromi

北海道教育大学非常勤 山口 アンナ 真美

YAMAGUCHI Ana Mami

#### はじめに 拡大する経済と教育

ブラジルは人口が約1億9,000万人（2006年）、大統領制で、26の州からなる連邦共和国である。政治面では、1980年代に軍事政権からの民主化を達成し、選挙による大統領交代が定着している。2010年10月の大統領選挙で、中道左派の労働者党からジルマ・ロウセフ氏が、ブラジル初の女性大統領に選出された。経済面では、BRICsの一角として2011年のGDPが2兆ドル、世界第6位の大規模経済に成長している。1980年代の経済危機とハイパー・インフレーションを1990年代に乗り越え、生産の多様化を押し進めた。現在では工業がGDPの31%を占めるほかに、世界最大の鉄輸出、世界有数の銅輸出をはじめとする各種原料輸出が盛んである。燃料用アルコール、柑橘ジュース、コーヒー、大豆関連製品、タバコでは世界最大の輸出国であり、牛肉、鶏肉、豚肉では輸出額が世界第4位までに入り、そのほかにも小麦、トウモロコシが伸びている<sup>1</sup>。世界的によく知られている貧富の格差は、依然として大きいものの、縮小する兆しが見えている。

ブラジルの教育は、政治の安定や経済の好調な動きに同調するように、近年急速に成長しつつある。1990年の「万人のための教育」世界会議以来、ブラジルはE-9（人口が大きく非識字者の3分の2をこれらの国々だけで占める、中国、インド、バングラデシュ、ナイジェリアなど9カ国）の一つとして、基礎教育の普及に国を挙げて取り組んできた。1996年には「教育基本法（法律第9394号）」を定め、2001年には「国家教育計画（法律第10172号）」により、国民の教育水準の向上、教育の質の向上、公立学校への通学における地域的社会的不平等の解消、学校の管理運営の民主化、という目的を掲げ、30項目の目標を追求する形で改革を進めることとした<sup>2</sup>。

政府は2010年にGDPの約5.8%、約3兆円を教育に投資しており、1960年代には人口の約40%に達していた15歳以上非識字率を、2009年現在で10%以下に抑え込んだ。ブラジル国立地理統計院（IBGE）のデータによれば、2009年、年齢に関係なく在籍児童数を学齢人口総数で割って得られる総就学率は、初等教育に関しては地域・所得水準の違いにかかわらず、100%近くに達している。学齢の在籍児童数のみで見た純就学率でも平均で90%を超え、初等教育の普遍化を実現していると言ってよい。中等教育については総就学率が90%を超える一方で、純就学率はまだ51%であり、所得別・地域別

<sup>1</sup> [http://www.brasemb.or.jp/economy/e\\_history.php](http://www.brasemb.or.jp/economy/e_history.php) 2012.5.15.

<sup>2</sup> 江原裕美「1990年代ブラジルの初等教育改革政策」『帝京大学外国語外国文学論集』第10号、2005年。

の差が大きいという課題はあるものの、その改善は急速である。2011年には今後10年間の教育目標と政策の指針を定めた新たな「2011-2020年国家教育計画(Plano Nacional de Educação 2011-2020)」を策定してその実行が期待されている。以下、変わりつつあるブラジルの教育事情を報告したい。

## 1. 教育制度の概要と理念

ブラジルでは、教育制度は大きく二つに分かれる。幼児教育(保育園、幼稚園)、初等教育(小学校・中学校)、中等教育(高等学校)を包含する基礎教育、そして高等教育(大学、専門教育機関など)である。教育省は、基礎教育は、「すべてのブラジル人に市民権を行使するために必要不可欠な共通な訓練を保障し、仕事や次の勉学において進歩するための手段を提供する方法」<sup>3</sup>、教育機会の提供にとどまらず、質の向上のための多面的なアプローチによって教育を改善しようとしている。

## 2. 初等教育

### (1) 制度とカリキュラム

まず大きな動きが見られるのが初等教育段階である。ブラジルの初等教育は前期4~5年間(小学校に相当)、後期4年間(中学校に相当)となっている。両者は一つの学校の中で提供されることが多い。義務教育は7歳から8年間だったのが、6歳から14歳の9年に延長されることとなり、2020年までに全面移行するよう取り組んでいるところである。幼児教育も義務化されることとなっており、将来的には義務教育は4歳から14歳となる。

生徒の6割は公立学校に通っている。公立学校の学費は無料で、教科書は支給され、給食も無料である。多くの都市の学校は都市化が進む中で流入する人口に合わせ、一日二部制、三部制となっている。午前、午後と別の生徒が通い、夜間には義務教育を終えていない成人や若者が通うという方式がよく見られる。

カリキュラムに関しては、1997年に発布された「初等教育国家カリキュラム教育指針」(Parâmetros Curriculares Nacionais para o Ensino Fundamental)において教科または科目ごとに教育の目標、教科の特質、原則、方針、基準となる教育内容および評価が示されており、それをもとに各地でカリキュラムを作る。前期初等教育の教科編成は、公立学校の場合、ポルトガル語、算数、自然科学、歴史と地理、芸術、体育、横断的テーマと倫理、環境と健康、文化多様性と性教育である。後期初等教育の教科編成はポルトガル語、数学、自然科学、歴史、地理、芸術、体育、外国語、環境、健康、文化多様性と性教育である。教科書は教育省が検定したものがあり、各管轄自治体でどれを採用するか決める。私立学校では、独自に教科書を開発しており、評判が高いものは販売され、他の学校でも使われていることがある。

### (2) 分権化と資金分配

初等教育の急速な拡大と充実の背景に注目する必要がある。それは教育の地方分権

<sup>3</sup> <http://www.brasil.gov.br/sobre/educacao/sistema-educacional/educacao-basica>  
2012. 5. 15.

化および同時に行われている教育財政改革である。初等教育の管轄は、次第に州から市へと移されており、約6割の初等学校が市立となっているが、これは教育予算の分配改革と表裏一体で行われている。それは、毎年生徒一人当たり公的経費の最低限を基準に定める一方、特定の税金を「基礎教育と教育の専門家の価値評価のための基金 (Fundo de Manutenção e Desenvolvimento da Educação Básica e de Valorização dos Profissionais da Educação, Fundeb)」として各州ごとにプールし、生徒数に応じて管轄自治体に分配するもので、州内で集められた金額では基準に満たない場合、連邦がそれを補完することになっている。地方分権化によりこの資金は直接、学校の管轄自治体に送られることとなり、各学校にわたる金額が増えた。またこうして配分された資金の6割は教員の給与に当てられなければならないと定められている。この他にも様々なプログラムが直接学校に資金を提供する仕組みとなっている。評議会の設置など、透明性の確保にも注意が払われている。以上の仕組みは、不就学者の減少や貧しい地域の教育資金増に効果を発揮している<sup>4</sup>。

### (3) 学力問題

教育機会の拡大だけでなく、質の向上、中でも学力の問題は、ブラジルの重要な政策目標となっている。特にPISAの結果は2000年の初参加のときに、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーのいずれでも31カ国中31位と最下位であり、2003年、2006年にも低迷していたことから注目を集めてきた<sup>5</sup>。しかし2009年には数学リテラシーが向上して、点数が最も伸びた国の一つとなった。新たな国家教育計画では、2009年のPISA得点395点を2021年に473点とするという目標を掲げている<sup>6</sup>。

ブラジルは、基礎教育評価制度(SAEB、対象は初等教育5年生、9年生、高校3年生)、学力検定評価(Provinha Brasil、初等教育2年生)、中等教育全国学力検定試験(ENEM、中等教育修了者)といった独自のナショナルテストを実施し、そのデータで教育を評価する体制を整えている。国立教育研究所(INEP)は、「基礎教育開発指数(IDEP)」を策定、上記のデータを用いて指数を算出し、2021年にOECD諸国並みの教育の質向上を実現しようと努めているのである。

## 3. 中等教育

ブラジル国立地理統計院によれば、2009年の15～17歳の就学率は全国平均で85.2%に達していた。しかしそのうちのかなりの割合は初等教育在学中であり、同年の中等教育純就学率は50.9%にとどまっていた。国内の地域によっても純就学率に違いがあるほか、所得階層別に見ると所得を5階層に分けたとき、最下層の純就学率は30%強で、最上層の半分に達しない水準である。「2011-2020年国家教育計画」は、2016年までに15歳から17歳の人口の(いずれの段階にしても)就学率を100%とすること、

<sup>4</sup> その当初の仕組みや経緯については江原裕美「ブラジル初等教育改革における分権化と学校自律性の強化」『帝京大学外国語外国文学論集』第11号、2006年を参照のこと。

<sup>5</sup> ブラジルにおける学力論議については、江原裕美「ラテンアメリカ 植民地遺制と経済社会構造による格差に挑戦する国々」『揺れる世界の学力マップ』明石書店、2009年を参照のこと。

<sup>6</sup> Plano Nacional de Educação 2011-2020、目標7.24。

[http://portal.mec.gov.br/index.php?option=com\\_content&view=article&id=16478&Itemid=1107](http://portal.mec.gov.br/index.php?option=com_content&view=article&id=16478&Itemid=1107)  
この頁にリンクあり。2012.5.18.

そして2020年までには同年齢の高校への純就学率85%を達成することを目標としている。

初等教育が州から市に移行しつつあるのに対し、高校は90%以上が州立である。普通科が3年で専門科が4年となっている。普通科の在籍者数が圧倒的で、中等教育在籍者数920万人のうち、専門科は67.6万人(7%)にとどまる<sup>7</sup>。

前述のように初等教育の拡大が進み、それが中等教育をも押し上げつつある現在の状況において、高等教育への入り口ともなる中等教育への圧力はますます高まっている。前述のナショナルテストの一つである、中等教育全国学力検定試験ENEMにより、学校間の序列がよくわかるようになってきている。トップ100校は毎年発表され、そのうち公立校は10%ほどである。2010年はリオ・デ・ジャネイロ州のコレジオ・サン・ベント<sup>8</sup>ほか私立高校がトップ3を占めた。公立学校が無償であるのに比べてこれらの学校の授業料は高い。しかし大学に合格するため、また質の高い教育を求めるため、希望者が多い。

#### 4. 高等教育

高等教育機関は、総合大学、単科大学、大学センターなど多様である。かつては公立が主だったが、私立が急速に増加し、現在は、連邦99校、州立108校、市立71校と私立2,099校<sup>9</sup>となっている。全登録学生数は2010年度、637万9,299人であり、そのうち473万6,001人、74.2%が私立大学に通っている<sup>10</sup>。その10年前、2001年には全登録学生数303万6,113人、私立大学のそれは209万1,529人だったのであり、2倍をゆうに超えた増加を示している。2010年の18歳から24歳の高等教育在籍率は17%であり、国家教育計画ではこれを2020年までに33%に、高等教育進学率については50%に引き上げることを目標としている<sup>11</sup>。

機会の拡大と同時に不平等の是正もまた課題である。ブラジルの有力高等教育機関は州立サンパウロ大学、州立カンピーナス大学、国立リオ・グランデ・ド・スル大学など、ほぼ公立大学となっている。これら無償の有力大学への入学試験(Vestibular)の競争は苛烈であり、前述のような進学率の高い私立学校が人気を呼ぶことになるわけである。その結果、有力公立大学の入学者の多くが、私立学校を出た所得の高い階層出身者で占められ、低所得者層は高い学費を負担しつつ私立大学に集まる傾向があるという実状となっており、以前から高等教育進学機会の不平等問題として批判されている。

こうした批判に応えるように、2004年には、「全国民向け大学教育提供プログラム(ProUni)」が始まり、低所得層の志望者に学費の全額、または一部を免除し、高等教育への機会を提供している。受益者は私立の高等教育機関の学部学生または継続教育

<sup>7</sup> [http://www.senado.gov.br/senado/conleg/textos\\_discussao/TD33-MarceloOttoniCastro.pdf](http://www.senado.gov.br/senado/conleg/textos_discussao/TD33-MarceloOttoniCastro.pdf) 2012. 4. 28.

<sup>8</sup> <http://educacao.uol.com.br/noticias/2011/09/12/melhor-nota-no-enem-2010-colegio-carica-investe-em-fundamental-forte-e-com-disciplina.htm> 2012. 5. 16.

<sup>9</sup> Censo da Educação Superior 2010, outubro 2011.

<sup>10</sup> Censo da Educação Superior 2010, outubro 2011.

<sup>11</sup> Plano Nacional de Educação 2011-2020, Meta 12.

の学生であり、ENEMの成績と家庭の社会経済状態から選抜される<sup>12</sup>。受益者数は、2011年後期で92,107人であった<sup>13</sup>。

加えて大学院レベルの質的向上も重要視されており、科学技術育成のための留学交流プログラムも始まった。「国境なき科学(Ciências sem Fronteiras)」と呼ばれるもので、国際的な交流と人材の流動化によって、科学技術の確立・拡大・国際化を進め、ブラジルに技術革新をもたらし、国際競争力を高めることを目的とし、2012年から2015年の4年間でブラジルの大学院生や技術者を中心に、海外からの研究者招聘も含め、最大75,000名に奨学金を供与するとしている。優先分野は工学、技術、精密科学、地球科学、宇宙科学、生物医療科学、コンピューター情報通信、薬学、持続可能な農業生産、石油やガスなどの鉱物採掘、再生可能エネルギー、ナノテクノロジーなど先端分野を中心に多くの科学技術分野が挙げられている。2012年1月18日現在で30カ国とのあいだで1,233名が対象となっている<sup>14</sup>。

### おわりにかえて

ブラジルの教育改革の特徴を挙げるとすればその多様なアプローチに見る創意と柔軟性、そしてスピードの速さと言えよう。そして国立教育研究所の活動に見られるように、独自の調査研究を行い科学的な評価と方法を志向し、教育の改革運営においてかなりの力をつけてきている。紙幅の関係で扱えなかったが、二部、三部制に見られる初等教育の半日制から全日制への移行、幼児教育、識字教育、職業技術教育、遠隔教育、障害者らを包含するインクルージョンなどの面でも目覚ましいプログラムが次々に打ち出されている。それだけでなく、基礎教育の普及拡大と質の向上は、低所得家庭への給付金(Bolsa Familia)、同じく奨学金(Bolsa Escola)といった社会プログラムと組み合わせられている。こうした「条件付き現金給付(conditional cash transfer)」は、成功例として他の途上国にも取り入れられている。またブラジルの大学が他の開発途上国の学生を受入れるなど、教育開発の面で注目すべき存在であると言えよう。

ブラジルの15歳以上非識字率はなお9.6%<sup>15</sup>で、中等教育段階以上での就学率はラテンアメリカ内でアルゼンチン、メキシコ、チリといった国々に遅れを取っているが、これまで述べてきたような改革から、今後の伸びが大いに期待できよう。「未来の大国」と言われたブラジルは今、教育への本気の取り組みによって、まさに真の大国への道に向かって歩みだしたと言えるのではないだろうか。

<sup>12</sup> ブラジル教育省ホームページおよびブラジル大使館ホームページ。

[http://portal.mec.gov.br/index.php?option=com\\_content&view=article&id=205&Itemid=298](http://portal.mec.gov.br/index.php?option=com_content&view=article&id=205&Itemid=298)  
<http://www.brasemb.or.jp/info/education.php> 2012.5.8.

<sup>13</sup> ProUni ウェブサイト。

[http://siteprouni.mec.gov.br/images/arquivos/pdf/Quadros\\_informativos/numero\\_bolsas\\_ofertadas\\_por\\_uf\\_segundo\\_semestre\\_2011.pdf](http://siteprouni.mec.gov.br/images/arquivos/pdf/Quadros_informativos/numero_bolsas_ofertadas_por_uf_segundo_semestre_2011.pdf) 2012.5.6.

<sup>14</sup> <http://www.cienciasemfronteiras.gov.br/web/csf/estatisticas-e-indicadores>  
2012.5.20.

<sup>15</sup> <http://www.todospelaeducacao.org.br/educacao-no-brasil/numeros-do-brasil/brasil/>  
2012.5.16.